

明德義塾中学校・高等学校

新シリーズ：「International Boarding School」で学ぶ 第6回

ジャパン・サマースクール「どたばた記」

広報入試部長 高橋 聖

今回は7月に開催した、第2回ジャパン・サマースクールについて、生徒の受入から感動の別れまでの12日間を、「どたばた記」として紹介させていただきます。

英語での問合せに四苦八苦

今年も昨年同様1月より受付をスタートさせましたが、昨年と大きく異なった点は日本語ではなく英語での問合せが増えたことです。それも気軽に「サマースクールに奨学金はありますか」とか、その他サマースクールとは直接関係の無い質問がメールで飛び込んでくるのです。英語の文章は理解できるものの、それに対して学校のオフィシャルな英語の文章を作成する能力に「？」が付く私としては、英語の先生にひたすら低姿勢で助けを求めるのですが、「敵もさるもの」忙しさを理由に中々助け舟を出してくれません。悪戦苦闘を繰り返し、英文の問合せに対応した結果、今年は香港在住でフランス国籍を持ち、英語とフランス語を喋るフランス人形のようにかわいい女の子が参加してくれました。実は、中国やタイ、台湾などからも日本語の出来ない生徒は参加するのですが、殆ど場合は日本語での問合せです。これは保護者のどちらかが日本人である場合が多いからだと思います。

来年は今年の反省をもとに、英語のネイティブの先生を初めから問合せの担当に巻き込みたいともくろんでいます。ジョナサン先生に照準を当てています。これで枕を高くして来年の募集に臨めます。

世界、12の国と地域からこんにちは

昨年は9つの国と地域より25名の生徒を受け入れましたが、今年は更に5名増え、12の国と地域より30名の生徒が高知の明德義塾に集いました。初来日の生徒もあり、成田や関西空港からどのように高知に行くのが一番便利なのか、と言った問いに答えることから参加者とのコミュニケーションがスタートしました。なるべく参加者のニーズに応えてあげたいとの気持ちが先行し、気づいてみれば、集合の当日は学校から高知駅・高知空港を片道1時間かけて、早朝から夕刻まで何度も往復する仕事がスタッフを待ちかまえていました。

夜行バスで東京や名古屋、大阪から来る生徒、JRを利用して新幹線と在来線乗り継いでくる生徒、飛行機を利用する生徒、そして保護者と共に車に来る生徒など、来高の手段は多種多様です。スタッフは全員の来高、離高手段を事前に把握します。到着日や前日にホテルを利用する場合はホテル名、交通機関の便名、到着時間、集合時間、集合場所、同行者の有無、緊急連絡先、学校見学についてなど、万全の体制で一人一人を受け入れています。来年もどの地域からも安心して参加してください。空港、駅でお待ちしています。

お互いを探りあいながら進むプログラム

年齢も、国籍も、言語も、価値観もばらばらな生徒達が集まるサマースクールですが、2つの点でベクトルを同じくしています。1つは日本語のスキルアップを図る事、2つめは日本の自然と文化を体験し、楽しむ事です。「日本が好き」が根底にあると思います。たとえそれがアニメに限定されていても、日本語を学ぶ動機としては十分です。

明德に到着したばかりの生徒達は、まずは言語圏別、滞在している国別に親しくなります。今回は香港から参加した生徒がフランス語と英語しか喋れず、みんなに馴染めるか少し心配しましたが、スウェーデンから参加した生徒が日本語とフランス語、英語に堪能だった為、直ぐに友達になり、フランス語で会話し溶け込むことができていました。



全員で高知城見学